

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」TEMDEC (Telemedicine Development Center of Asia)活動報告：第15巻

<https://doi.org/10.15017/4475230>

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 15, 2019-03. TENDEC Office
バージョン：
権利関係：



1.はじめに

今年の大きな行事としては、まず第 22 回日本遠隔医療学会学術大会を福岡で主催させていただいたことが挙げられます。4月にオンライン診療が初めて保険収載されたこともあり、非常に多くの方々にご参加いただき、大変活気ある会となりました。また第 12 回アジア遠隔医療シンポジウムとの合同開催のため英語のセッションも数多く企画し、海外からの出席者と共に遠隔医療の国際化についても大いにアピールできたものと思います。

海外におけるワークショップや研修プログラムが数多く企画された年でもありました。4月のベトナムに始まり、8月のインドネシア、11月のチリ、1月のフィリピンと続きました。11月のメキシコ、12月のミャンマーでは、それぞれ国内初めてとなる会が開催されました。さらに8月のニュージーランド、2月の韓国では APAN 会場における技術者向けトレーニングプログラム、8月と1月にはベトナム、ネパール、バングラデシュ、ブラジル、インドから技術者を当センターに招聘した指導者養成プログラムも例年通り実施しています。

遠隔教育プログラムも順調にその数を伸ばし、来年は早々に 1000 回を達成できる所まで来ています。注目すべきは、まずロシアにおけるテレカンファレンスでしょう。昨年度モスクワ周辺の 3 地点で始まったプログラムは、極東地区や内陸部を含め広大なロシア全体をカバーした 10 か所にまで急速に拡大しました。またこれまでインターネットの状況が悪くアクセスのできなかったミャンマーへの新たな接続が始まり、年末に発表された TEIN への学術ネットワーク開始のニュースと共に今後の展開が期待されます。さらにナイジェリア出身の Tayo が 6 か月滞在してくれたこともあり、アフリカセッションが再開した形でサハラ以南の国々との活動が活発化し始めたことも嬉しい出来事でした。

今年も様々な国を訪問しましたが、ウラジオストクでは 170 もの系列病院を有するロシア鉄道病院グループと国際医療部との MOU を締結し、またチリでは予てより活動を続けているアレマナ病院との MOU の調印式を行いました。今後の活動によっては、部局協定への格上げも期待されます。

今年度の嬉しいニュースとしてはもう一つ、「アジア研究教育機構（仮称）」設立へ向けた九大の QR プログラムに採択されたことがあります。資源、環境、都市、防災などと共に我々が医療・健康クラスターをリードすることとなり、来年度以降の展開が楽しみです。

皆様の一層のご支援をいただけます様、今後ともよろしくお願い申し上げます。

平成 31 年 3 月

九州大学病院 国際医療部 アジア遠隔医療開発センター センター長

清水 周次